

「河井弥八日記」とその価値

「文書中、最も重要だと思われるのが、弥八氏が生涯つづった日記です。「河井弥八日記」は、東京帝国大学在学中の明治35年から死去した昭和35年までのものが確認され（一部欠落あり）、その解読によって、弥八氏の活動はもちろん「河井家文書」の全貌も明らかとなります。すでに弥八氏の宮廷人としての活動は公刊日記（注、『昭和初期の天皇と宮中 侍従次長日記』全6巻、岩波書店、1993年）によって明らかにされていますが、長年「議会官僚」として貴族院事務局に在職していた時期の記録は、大正デモクラシー期の憲政の発達を裏面から明らかにする好史料といえます。また昭和期に貴族院議員として活動していた時期の日記は、議会改革の試みや戦時議会の実態を示す貴重な史料であり、戦後の参議院議員、同議長時代の日記は、いまだ解明が十分に進んでいない戦後史・占領史の研究を大きく前進させる画期的な内容を含んでいます。」

宮内省書陵部研修課主任研究官

内藤 一成

京都大学大学院法学研究科准教授

奈良岡聰智

九州大学法学部研究院准教授

赤坂 幸一

「河井家文書の意義と今後の活用について（報告）」より抜粋



河井弥八日記の一部（原本）



河井弥八日記 昭和初期 全6巻

河井弥八日記 戦後篇 3巻